

## ガラスの塊 キャスト( 鑄造 )による造形

傷つきやすく繊細なことを、「ガラスのような」と言いあらわすことはありませんか? これは、私たちがガラスに対して、脆くて壊れやすいものというイメージを抱いているために、使う表現ですよね。たしかに、ガラスはその透明感や輝きとともに、脆さや繊細さという特徴もっています。そして、それらはすべてガラスという素材の魅力に結びついているともいえるでしょう。

でも、そうしたイメージとはちょっと違う表情のガラスだってあるのです。今回紹介するのは、まるで彫刻のような重量感を感じさせるガラスの数々。溶かしたガラスを、作家がつくった型に流し込んで成形する、「キャスト( 鑄造 )」と呼ば



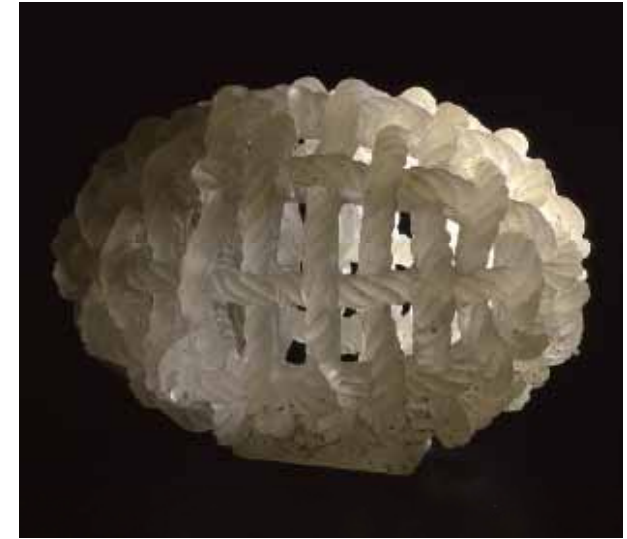
スタニスラフ・リベンスキー  
/ ヤロスラヴァ・プリフトヴァ  
接触 1985年

れる技法を用いた作品をとりあげます。

この技法でつくられたガラスは、自由に形づくられた彫刻的な形態と、塊状の重量感を特徴としてい

ます。ガラスを芸術表現のための素材として選び、その可能性を追究している現代のガラス造形作家たちには、とくに好んで用いられている技法のひとつといえるでしょう。彼らは、光の透過性、輝き、可塑性といったガラス固有の性質をいかしながらも、この技法によって、ダイナ

ミックで存在感のあるガラス作品を発表しています。厚みのある抽象彫刻のような力強い造形や、建築的な構造の作品は、脆くて華奢なものというガラスのイメージを



イヴァン・マレシュ 卵 1997年

一新する魅力にあふれています。キャスト技法によって、表現の可能性を大きく切りひらいたガラス造形の豊かな世界をぜひごらんください。